

令和6年度第3回子育て王国とっとり会議 議事概要

- 1 日 時 令和7年3月10日（月）午後1時から午後3時まで
- 2 場 所 鳥取県庁特別会議室（一部オンラインにより実施）
- 3 出席者 出席者名簿（別紙）のとおりに委員23名中18名の出席により会議成立
- 4 議事概要

（1）シン・子育て王国とっとり計画の改訂案に係る審議

「シン・子育て王国とっとり計画」の改訂案について説明し、意見を伺った。

（2）令和6年出生数（人口動態統計・速報値）に係る審議

「令和6年出生数（人口動態調査（速報値）」の結果（2月27日公表）に対する分析資料を踏まえ、今後の少子化対策の方向性や施策のアイデアについて意見を伺った。

（3）子育て支援情報発信方法検討部会の設置及び委員の指名に係る審議

新たに子育て支援情報発信方法検討部会を王国会議内に設置すること、委員の指名案について諮り、承認された。

（4）とっとり自然保育認証審議部会の部会規程改正に係る審議

とっとり自然保育認証審議部会の部会規程改正について諮り、承認された。

＜各委員からの主な意見＞

（1）シン・子育て王国とっとり計画の改訂案に係る審議

（木村委員）

- ・県内の大学や専門学校で学ぶ学生の課題感を共有する場や、意見を募る場や仕組みの充実を図ってもらいたい。

（中村委員）

- ・子どもの自死は何としても防ぐことが絶対必要という意識を持って、計画につなげてもらいたい。

（伊木委員）

- ・学校の先生からSNSトラブルについて話してほしいとの依頼が増えている。県事業の高校生へのライフプランセミナーでも、SNSトラブルの課題を取り入れてはどうか。

（江原委員）

- ・育休取得率は1日、2日の育休でもカウントされてしまう。それでは有給に近いものになるので、育休取得日数というのもしっかりと追跡して確認する必要があると思う。
- ・男性育休を取ったことで、「産後うつが改善された」「2人目を考えるようになった」など、男性の育休取得が与える影響のデータを取るようにした方が良い。

（2）令和6年出生数（人口動態統計・速報値）に係る審議

（禮場委員）

- ・県が企業とタイアップして、新婚生活にかかる費用の割引など特典を作れば、県全体で結婚を応援しているという機運が高まるのではないかと。

（磯江委員）

- ・経済的な部分で、子育て世代も次の子どもが欲しいとなっても次に踏み切れないと思うケースがある。鳥取県の最低賃金が低いと出生数も増えていかないと思う。

（伊木委員）

- ・鳥取県で暮らす場合、給与が低くても家計消費支出や土地代の低さから貯蓄額は低くない（全国26位）ことを、これまで7,000人の高校生に伝えてきた。

（木村委員）

- ・大学生は企業の給与面に目がいくので、鳥取県で働くことに関して、大学生にも視点を当てて魅力を伝えて欲しい。

（江原委員）

- ・婚姻されている方、未婚の方で経済状況は変わってくる。そういったことも考慮した少子化対策や国のサポートをした方が良いと思う。
- ・勤務形態や賃金の部分などで、家事などの生活を回していく余裕がないため、子どもを産みたいと思うようにならないという人も多い。そういった生活の中のサポートや体制作りという部分も見直して進めてもらいたい。

（山下（朋）委員）

- ・鳥取県では子育て層の転出も増えているので対策を考えていくべき。

(中村委員)

- ・第2子、第3子をもうけないのは、経済的な理由が大きい。婚活支援も大事だが、第2子以降を産みたいと思えるような施策も考えていった方がよい。

(本城委員)

- ・子育て中の方が、親はこうすべきなどの言葉で気に病む姿を見ている。特に公的な機関で助言する人は、自分が発する言葉の意味を見つめ直し、意識をアップデートすることが改めて必要だと思う。

5 報告事項

以下5項目について、事務局から報告を行った

- 令和6年度実績・評価と令和7年度の主な施策について（資料5）
- 令和7年度の子育て支援施策の予算要求状況について（資料6）
- とっとり自然保育認証審議部会の開催結果について（資料7）
- 「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in ととりの開催結果について（資料8）
- 鳥取県青少年健全育成条例の一部改正について（資料9）

<各委員からの主な意見>

【王国アプリ】

(山下（朋）委員)

- ・アプリを入れてみて、欲しい情報を探したが、遷移先の王国サイトは見づらく、冊子のPDFが出るなど情報を取得しづらいと感じる。もう少し予算をかけて改修や広報をすればもっと登録者が増えると思う。

(中村委員)

- ・アプリは子育て応援パスポートを電子で見せるだけのものになっている。登録者数は倍近く増えているので今後の可能性はあると思う。在り方について部会で検討していければと思う。

【放課後等デイサービス】

(市川委員)

- ・放課後等デイサービスの設置数は増えているが、設置後は運営主体だけでやっていて、活動などの動きが「見える化」されていないと感じる。横のつながりも無いので、運営者等を集めて、地域・運営主体の意思統一や基準を合わせるなどの会議を開催してみてもどうか。

【若者の移住関係】

(檜山委員)

- ・都会の大学に行くと、都会の企業に就職したいという気持ちが強くなる。鳥取県の企業説明会に参加しても、都会の企業の方が魅力的に見える。高校生の頃に地域振興について考える機会は多かったが、地元企業で働くことを考える機会はなかった。高校生のうちに地域の企業について知る機会も大切だと思う。

(宮谷委員)

- ・就活生と接すると、給料などで都会に魅力を感じている方が多い。ただ、採用担当として、家賃や社会保険料などを鑑みると、都会とあまり手取りは変わらないという話をすると、鳥取の方が良いと考えが変わる学生も多い。

【子ども食堂】

(礒江委員)

- ・子ども食堂は仕事の関係で空いている時間にいけない方もいる。平日の夕方に小学校にお母さん方が集まって子ども食堂のようなこともできたら、もう少し人材確保ができるのではないかなと思う

(市川委員)

- ・子ども食堂はボランティアベースなので、開所時間以外でも、準備や片付けなどもあるため、結構負担がある。町に複数子ども食堂があり、昼や夜に出すところが分かれていることが理想だと思う。

(檜山委員)

- ・大学生の自分は、子どもたちの春休みに合わせて、地域食堂や子どもたちの学習会をやろうと思っている。地域食堂の運営に大学生が携わると、学校の先生を目指している学生は子どもたちに教える、関わる機会ができて良いので、地域食堂の運営に大学生を活用することは良いと思う。

【産後ケア】

(市川委員)

- ・特に中部地区では産後ケアの施設はあっても、稼働率が極端に低いという声がある。施設数も大事だが、稼働率を上げることにも目を向けてほしい。

【その他】

(市川委員)

- ・県立美術館で、県下全ての小学4年生を美術館に招き、絵を題材にした対話鑑賞を経験させようという企画がある。ぜひその場に子育て王国課の方も顔を出してもらえればと思う。

(伊木委員)

- ・鳥取県は「子育て王国」と銘打って15周年になる。「王国」と掲げている県は他にない。鳥取県での子育ては恵まれていて、医療費の無償化など子育て施策の先進県であると思う。先進県であることをもっと伝えていった方がよい。

6 その他

次回会議の開催は、令和7年5月～6月を予定。今回の意見の反映状況を報告するとともに、シン・子育て王国とっとり計画の最終の見直し案について審議していただく。

－以上－

(別紙)

令和6年度第3回子育て王国とっとり会議出席者名簿

(敬称略)

氏 名	分 野		ご所属等	参加方式
鈴木 慎一郎	学識経験者		鳥取大学地域学部教授	現地
津上 崇			鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授	御欠席
江原 朋美	公募委員		整理収納アドバイザー	現地
山下 朋子	子育て中の方		鳥取市小学校 PTA 連合会副会長 (湖山西小学校)	現地
中村 聡志	他県から移住された方		八頭町地域おこし協力隊 (八頭町商工観光室)	現地
伊木 恭憲	結婚・子育てなど若者のライフプランの 形成支援に取り組まれている方		(株)そうだんひろば代表取締役 (ファイナンシャル・プランナー)	現地
市川 義章	地域で子育て支援に取り組まれている方		ゆりはま子育てネットワークくぶくぶ代表	WEB
小嶋 美恵子	児童福祉	保育所	浜坂保育園長	御欠席
本城 貴子		母子生活支援施設	米子聖園コスモス施設長	現地
石井 祥子	保健・医療	医師(小児科)	石井内科小児科クリニック副院長	WEB
鎌沢 俊二		医師(産婦人科)	鎌沢マタニティークリニック	WEB
桐谷 朋子	教育	幼稚園	認定こども園みずほ幼稚園長	現地
梅原 憲和		学校教育	湯梨浜町立湯梨浜中学校校長	WEB
山田 節子		家庭教育	児童書を楽しむ会・つくしんぼ代表	御欠席
宮谷 由佳	産業		ヤマタホールディングス株式会社チーフマネージャー	現地
尾崎 宏之	労働		おさき社会保険労務士事務所社会保険労務士	現地
禮場 夏江	結婚支援をされている方		婚活サロンアプローズ代表	現地
濱田 寿之	市町村		鳥取市健康こども部こども家庭局 幼児保育課長	御欠席
山下 清香			八頭町保健課保健師	現地
磯江 沙季	若者		会社員 (とっとり若者活躍局)	WEB
井上 柊			鳥取大学地域学部3年 (とっとり若者活躍局)	御欠席
木村 海翔			鳥取大学地域学部2年 (とっとり若者活躍局)	現地
檜山 琴音			公立鳥取環境大学環境学部2年 (とっとり若者活躍局)	WEB